

下甕島・瀬々野浦地区との運動会を通じた地域交流

(および 同地区の体験型観光振興(「ウラおこし」と情報発信の方策)

報告書

実施期間

2014年9月25日～29日

九州情報大学

学術研究所 地域情報センター

《目次》

1. 事業実施の目的と事業の概要 1
2. 実施場所 2
3. 実施時期 2
4. 事業内容（実践内容） 2 日程（スケジュール） 3
5. 事業実施・実践内容の詳細 ～その成果と課題 4
 - (1) 瀬々野浦・西山地区における運動会への参加交流と相撲部によるチャンロ鍋の提供 4
 - ① 瀬々野浦・西山地区の運動会に参加 4
 - ② 「チャンロ鍋」で交流 7
 - ③ 運動会の打ち上げに参加 8アンケートより 8（瀬々野浦のみなさんの感想 9）
《瀬々野浦での交流の成果と課題》 10
 - (2) 相撲部による長浜小学校での綱引きと相撲による交流 11
 - ① 綱引き対決 11
 - ② 相撲で交流 12アンケートより（長浜小学校の子ども達の感想 13 / 保護者の感想 14）
《瀬々野浦での交流の成果と課題》 21
 - (3) 壁画づくりのお手伝い 15
 - (4) 情報発信 16
 - (5) 「甌島」体験を、他の学習・研究活動へとつなぐ取り組み 16
 - ① 事前学習・事前調査の取り組み 16
 - ② 学園祭での「甌島フェア」の取り組み 17
 - ③ 学園祭での「アイランドキャンパス」報告会の開催 19
 - ④ 卒業研究テーマに甌島をフィールドとする取り組み 19
6. 参加学生の感想 20
7. おわりに 28
8. 参加者 30
参加者名簿 30

下甌島・瀬々野浦地区との運動会を通じた地域交流 (および 同地区の体験型観光振興(「ウラおこし」と情報発信の方策) ～報告書～

2014年11月27日

九州情報大学 学術研究所 地域情報センター

教授 平田 毅

1. 事業実施の目的と事業の概要

- ・学生が「甌島」と出会う(出会い直す)ことを通して、甌島という地域(離島)に愛着をもち、日本の離島文化の一端を理解しようとする態度を養う。
- ・学生が西山地区(瀬々野浦)運動会へ参加し、料理提供等を通して交流することにより、相互の親睦を図るとともに交流を深める。また、九州唯一の大学相撲部の参加により、本学への関心と理解を高める。
- ・瀬々野浦地区の人々の営みや自然・歴史を実地に学ぶことを通して、地域理解を深めるとともに「ウラおこし」の観光資源を発掘し、体験型観光振興のプラン作成を試みる。
- ・上記、観光資源など瀬々野浦の魅力を効果的に情報発信していくための方策を実践的に試みることを通して、情報を活用する力(発信する力)を身につける。

甌島を楽しむ ～自然を楽しむ。文化を楽しむ。出会い・再会を楽しむ。

甌島とつながる ～多くの人々と出会い、つながりを深める。

【昨年度の取り組みから】

一昨年度(2012年9月)、薩摩川内市事業「こしきアイランドキャンパス」で本学は、甌島への漂着物(韓国からの)を一つの契機として、上甌島・里小学校の子どもたちと本学の韓国人留学生とを遊びと歌を通して交流する試みを実施した。子ども達にとってそのことは、海を介して繋がっている世界(異文化)への理解に向けた何らかの契機となったものと信じている。また、参加した本学留学生にとっても日本の離島文化(人、自然、風俗、生活習慣など)の一端に触れる大きな機会となった。「甌島」体験は、その後の彼らの卒業研究において甌島の民家について調査・研究してみようという動機に繋がっていった。

昨年度(2013年9月)は、場所を下甌島に移し、前年の反省と教訓の上に再度国際交流の実践を実施した。瀬々野浦地区でウラおこし事業の一環として考案され地元の食文化を生かした料理「ごちそうさんど」と韓国料理を通じた国際交流・国際理解を深めた。また、その瀬々野浦の子ども達が通う長浜小学校において、韓国の遊びや歌を通じた国際交流の授業実践を実施した。さらには、昨年3月の瀬々野浦地区の小学校・西山小学校の閉校に伴い、初の地域のみで実施する運動会に本学学生も参加させていただくことにより、地域ぐるみの交流も実現できた。

【本年度の取り組み】

本年度は昨年同様、下甕島・瀬々野浦での交流が中心となった。

本年度から、薩摩川内市の「こしきアイランドキャンパス」事業が休止されたため、鹿児島県離島振興協議会の「アイランドキャンパス」事業からの助成を得ることができたため、これまでの取り組みを継承した3年目の事業として実施することができた。

また、本年度は本学韓国人留学生の参加が困難な状況となったため、九州で唯一の大学相撲部学生の参加を得て、本学への関心と理解を深める新たな試みを実施することができた。

取り組みは、西山地区の運動会へ参加し住民のみなさんとの交流を深めるとともに、下甕の子ども達とも相撲や綱引きなどを通しての交流の場を持つことができた。運動会の参加と長浜小学校で交流は昨年度から継続しての取り組みとなる。(取り組みの詳細については、「5. 事業実施・実践の内容の詳細～その成果と課題」を参照のこと)

2. 実施場所

下甕島（下甕町）

- ・西山地区（瀬々野浦）：（9月28日（日）） 場所：旧西山小学校（体育館）
西山地区の運動会に参加し、相撲部によるチャンコ鍋の提供による交流を実施
- ・瀬々野浦・長浜地区の子ども達との交流
壁画づくり / 綱引き練習への参加

3. 実施時期

2014年9月25日（木）～29日（月）4泊5日

※宿泊場所：4泊5日すべて：民宿「浦島」（瀬々野浦）

4. 事業内容（実践内容）

（1）交流実践の内容

- ①西山地区の住民との交流会 9月28日（日） 場所：旧西山小学校（体育館&校庭）
（内容）地区の運動会に参加し、相撲部によるチャンコ鍋の提供で、交流を図る
○チャンコ鍋の提供と交流 ※運動会昼食時に提供
※参加学生は「九州情報大チーム」として競技にも参加
学生による競技（出しもの）…相撲部
- ②壁画作り 9月26日（金） 場所：瀬々野浦から手打ちに向かう三叉路の切り通しに壁面
（内容）瀬々野浦方面の壁面に壁画を描く
- ③長浜小学校6年児童と綱引きで交流 9月26日（日） 場所：長浜小学校（体育館）
（内容）薩摩川内市の綱引き大会で優勝した6年生児童の綱引きの練習に参加して交流を図る
○綱引き／レクレーション／相撲部による相撲アトラクション

5. 事業実施・実践内容の詳細 ～その成果と課題

私たちの頼島での交流実践は、昨年度まで2年にわたり薩摩川内市の「こしきアイランドキャンパス」事業への参加という形で実施してきた。しかし、今年度から薩摩川内市の同事業が休止となったため、今年度は鹿児島県離島振興協会の「アイランドキャンパス」事業に参加させていただくことができたため、その助成を受けて継続した3回目の取り組みが可能となった。鹿児島県離島振興協会には感謝である。

さて、そうして実施した今回の「アイランドキャンパス」であるが、前回までの成果と教訓を活かして、さらなる内容の充実をどう図るかが課題であった。今回の取り組みは、大きく次の4項目である。

- (1) 下甕・瀬々野浦地区の運動会への2年目の参加を通して同地域の住民との交流
- (2) 長浜小学校の子ども達との再会と交流
- (3) 島おこしの一環として取り組まれている壁画づくりのお手伝い
- (4) アイランドキャンパスでの「学び」を他の学習・研究活動や実践の場面に繋げる

以下、上記それぞれの項目に沿って、今回の「こしきアイランドキャンパス」での私たちの実践を振り返りながら、総括していく。

(1) 瀬々野浦・西山地区における運動会への参加交流と相撲部によるチャンコ鍋の提供

①瀬々野浦・西山地区の運動会に参加 9月28日(日) 場所：旧西山小学校

昨年に引き続き瀬々野浦地区の運動会へ参加した。

昨年は韓国人留学生とともに参加し、昼食時間に韓国料理を提供することによって交流を行ったが、今年度は本学の相撲部員4名と共に参加することとなった。

この運動会へ昨年から継続して参加2回目となる学生は5名(＋教員1名・OG1名)であり、今回が初参加となる学生は5名(＋教員1名)であった。

場所は、旧西山小学校体育館。昨年は雨天のため校庭での開催が雨天のため急遽体育館に移動しての開催であったが、今年は当初から体育館での開催が決定していた。それは、地域の人口規模(150人程度)から体育館での開催が可能であること、参加者の纏まりが得やすいこと、高齢者にとっても屋内開催の方が熱中症等の健康面でのリスクが軽減されること、そして校庭での開催が施設管理面で難しいこと、などの理由が挙げられる。

私たちの参加は、その体育館での運動会準備から始まった。

運動会準備 9月27日(土) 午後

しばらく使用していない体育館ということもあり、準備作業はまず床掃除はじめとした体育館の清掃作業からはじまった。物品の後片付け・整理、会場内外への万国旗の飾り付け、放送設備の設置、道具の搬入、景品の搬入など、住民のみなさんと協力しながらの準備・設営のお手伝い。

住民の方々の中には、昨年参加した学生を覚えてくださっている方もいて、学生との再会の挨拶を

交わしている場面も多くみられた。

昨年に比べて作業も迅速に終わり、あとは明日の開催を待つばかりとなった。私たちは、明日の昼食時に提供する「チャンコ鍋」の準備のため、相撲部のメンバーとともにコミュニティセンターへ移動した。



西山地区の運動会（当日） 9月28日（日）

午前10時、いよいよ体育館で運動会開始。体育館での運動会開催が可能なのは西山地区の人口が150人余りだということもある。多くの住民の方々が続々と参集され、開会式に続き、準備体操、そして競技が始まった。

瀬々野浦区民訓導会プログラム

【開会式】

1. 短距離走（小学生全員）
2. 短距離走（中学生全員）
3. 短距離走（一般）
4. ピン倒し（一般）
5. さあ、火事だ！（消防団）
6. おおそうじ（高齢者学級）
7. 子どもに負けんど（子ども・評議員）
8. かわいいな（幼児）
9. 各種団体対抗リレー（団体・職員）
10. 組対抗綱引き合戦（選手）
11. ジャンケン大会（全員）

12. おどり（一般）

（昼食）

13. 宝さがし（70歳以上）
14. だいやめ（一般）
15. 相撲部です（九州情報大学）
16. ゆっくり急げ（高齢者学級）
17. 玉入れ（一般）
18. 組対抗リレー（上・下組選抜）

【閉会式】

私たち九州情報大学の参加は2年目ということもあり、何の違和感もなく溶け込んでいるようだった。相撲部メンバーは、全員まわし着用で運動会に参加しアピールした。

私たちはいくつかの競技に参加させていただいた。地域のみなさんの声援が飛び交うなか、相撲部学生がまわし姿で走る抜ける様は爽快ですらあった。拍手や笑い声が体育館の中に響き、学生達もその中で、笑顔あふれた表情で、楽しく競技に参加していた。



午後には、私たち九州情報大学相撲部によるプログラムが用意されていた。まず、相撲部4人によるシコ演技の披露、シコを踏むたびに声援が上がる。続く住民希望者との模擬取り組みは、最も盛り上がった場面となった。我こそはという「つわもの」たちが相撲部に挑んでくださった。



昨年同様、会場が一つとなったハートフルな運動会。今年も、西山地区、甕島がひとつであることを実感した時空間となった。その場に2年間にわたり私たちも「参加している」ことが、この上もない幸せであった。来年・再来年と継続して参加し続けることで、本学学生と西山地区との繋がりをもっと深めていきたいと願った。



②「チャンコ鍋」で交流 9月29日(日)運動会の昼食の時間 場所:旧西山小学校 体育館

運動会の昼休み時間を利用して、相撲部特製の「チャンコ鍋」を参加住民のみなさんに提供し、試食していただいた。コミュニティセンター調理室で前日に下ごしらえをしたものを、当日体育館入り口屋外にテントを設営しそこで仕上げ、提供した。

みなさん、「おいしい」「美味しい」と大変好評であった。何杯もおかわりしてくれる方もおられ私たちも大満足であった。

住民の方からは「昨年の韓国料理よりも私達年寄りにはこちらの方が美味しく食べられる」という声も聞かれた。





③ 運動会の打ち上げに参加 9月28日(日) 16:00～ 西山地区コミュニティセンター

昨年に引き続き今年も、運動会の後の「打ち上げ」に参加させていただいた。私たちを含めて40人ほどの参加でなごやかな宴の場もたれた。

参加された西山地区の方々と学生たちが膝を交えて語り合う。学生たちは昨年より増して打ち解けている印象をもった。卒論テーマのフィールドを甕島や瀬々野浦にしている学生は、参加した地区の方々から聞き取りをしている姿も見られた。お酒も入り、カラオケも入り、和やかに交流は続いていった。世代が異なる人たちが、「アイランドキャンパス」という事業を通して、共に運動会を仲立ちにこうして交流する、この場はすごくすごく有意義な空間だと、昨年に引き続き改めた感じた時間であった。すべてにおいて、西山地区のみなさんに感謝するばかりである。



アンケートより

運動会当日、相撲部の「チャンコ鍋」提供と一緒にアンケート用紙を配布し記入していただいた。64名の方々の回答を得た。

回答していただいたみなさんの内訳は、以下の通りである。

世代	男	女	総計
小学生	4	5	9
中学生	2	2	4
20歳代		1	1
30歳代	5	2	7
40歳代	1	3	4
50歳代	7		7
60歳代	7	5	12
70歳代	7	9	16
80歳代		2	2
90歳代		2	2
総計	33	31	64

参加地区	人数
瀬々野浦	42
長浜	14
手打	4
鹿島	3
片野浦	1
総計	64

60歳以上の割合が50%（34人）と高い比率を示している。高齢化が進行する地区の実態を反映したものとなっている。また、瀬々野浦地区以外からの参加者の回答も35%（22人）を占めている。これは親戚縁者の参加があることも示しているが、従来、地区外にも開かれた運動会が開催されてきた経緯も関係した数値と見ることもできる。

以下、瀬々野浦地区での取り組みについての感想等を掲載する。

瀬々野浦のみなさんの感想

- ・すもう種日はとても楽しかったです
- ・初めて近くでおすもうさんを見てよかった。すごく大きくてびっくりした。一緒に走って楽しかった。
- ・おすもうさんをこんなに近くでみれるのはめったにないのうれしいです。また来てください。
- ・初めて近くでおすもうさんを見てよかった。すごく大きくてびっくりした。一緒に走って楽しかった。
- ・大学生が来ておもしろかった
- ・たのしかった
- ・地域交流にとっても良いことだと思う。
- ・ぜひ、毎年来てください。まっていますよ。
- ・次回もよろしく願います。
- ・次回もぜひ来て下さい
- ・ぜひ来年も来てください
- ・来年も参加して下さい
- ・H27年もどうぞ
- ・ぜひ毎年参加してほしい！
- ・来年もよろしく願います
- ・地域の方も楽しみにしています
- ・ありがとうございました。
- ・参加していただいてにぎやかでした。来年もよろしく願います。
- ・地域以外にも参加できる西山の運動会なのでみんなで参加できるとたのしい。
- ・私達にも出来る事があれば教えてください
- ・西山の発展の為、大人の人達が、喜んでもらう行事ができたらと思う。協力はせいっぱいするつもりです。
- ・人口が減少する中で、交流人口の増加を図る意味で貴重な事である。
- ・人口の高齢化・減少により若い人の方は必要
- ・人口が少ない地域に来て下さると助かります。ありがとうございます
- ・瀬々野浦地区の活性化はもちろん、他の地域との触れ合いも企画されることで、下船島全体の盛り上げに貢献していただいております。ありがとうございます
- ・手打もよろしく願います。
- ・アイランドキャンパスの趣旨がよくわからない。単なる交流のために来ているのか、何かを学ぶために来ているのか。

るのか

《瀬々野浦での交流の成果と課題》

- (1) 今回の瀬々野浦での2年目の交流実践は、韓国人留学生の参加から相撲部学生の参加にシフトしたことを除いては、昨年を踏襲したものに留まった。瀬々野浦（西山地区）という150人ほどの集落での取り組みであったことが、すべてを成功に導いてくれていると心から思う。昨年から2年目ということもあり、住民の方々が私たちのことを覚えてくださっていることは、再会を通して繋がりを深めていくことに結びついていくと信じている。2年にわたり、お世話をしてくださった方々をはじめ西山地区のすべてのみなさんに、ただただ感謝するばかりである。
- (2) 相撲部による「チャンコ鍋」での交流については、とても喜んでいただいたと感じている。提供の仕方についても、体育館入り口外で最終的な調理をし、昼休み時間にそこで提供する形をとったが、ほとんど混乱もなくスムーズに提供することができた。また昨年までの韓国料理よりも好評だった印象を受けた。準備した200食（80器大鍋分）すべてが完配するまでにはいかなかったが、何倍もおかわりをする人もいて嬉しい限りであった。
- (3) 打ち上げは、昨年に同様、本当に良き機会と場を設定していただけたと感謝している。5名の参加学生が昨年に続き2回目の参加であったため、昨年に比べより深い交流を果たせたのではないかと思っている。こうした出会いや再会を通じて、異世代とのコミュニケーションは、すべての学生にとってとても有意義な経験となっていると感じている。宴は、カラオケ大会へと展開し、2次会へと広がっていったことは、さらに私達学生と住民の方々との結びつきを深めていくことにつながっていったと確信している。
- (4) しかし、今後の課題もまた明らかになってきていると思う。西山地区での私たちの運動会への参加は、あくまでも「参加させていただいている」という受け身の姿勢であることだ。確かに相撲部を中心とした「チャンコ鍋」の提供などを実施しているが、もっと「大学生＝学び・研究する主体」としての関わり方を模索し構築していく段階にきているのではないかと考えている。次年度以降の取り組みの中でその具体的な方向を探っていきたい。

以上を含めて、是非次年度も実施したい取り組みとなった。

(2) 相撲部による長浜小学校での綱引きと相撲による交流

9月26日(金) 13:00~16:00 長浜小学校(体育館)

昨年、長浜小学校に授業時間を割いていただき、留学生による国際交流授業を实践したが、今年は、6年生保護者(PTA)に呼びかけに応える形で、6年生児童との交流が中心の取り組みとなった。その内容は、

- ・薩摩川内市の綱引き大会で優勝した長浜小6年生チームに相撲部が挑むという交流
- ・相撲部による相撲を通じた交流

である。

これらの交流に先立ち、私たちが到着したのが、ちょうど昼休み時間ということもあり、小学校側の配慮で、全校の子ども達と校庭で共に遊ぶことで交流する機会をいただいた。2年目ということもあり、昨年の交流実践を覚えている子や本学学生のことを覚えている子もおり、自然に遊びの輪も広がっていったようだ。



①綱引き対決

長浜小学校の6年生との綱引き対決は、相撲部の連中を驚かせてくれた。そのときの様子を参加した学生は次のようにレポートしている。

「子ども達は薩摩川内市の綱引き大会で優勝しているということもあってかなりの強豪、相撲部が負ける場面もたびたび。顔をゆがめながら必死に綱を引いているまわしを着けた大きな体の相撲部たちの姿に、観戦している私たち、保護者の方や先生たちとともに盛り上がったのでした。子ども達VS相撲部4人の綱引きは辛くも引き分けにやっと持ち込めて相撲部の面子をなんとか保てました。」(九州情報大学地域情報センター Facebook ページより)



②相撲で交流

綱引きで悔しい思いをした相撲部学生たち、今度は子ども達と相撲を通しての交流で挽回である。シコ踏みの演技を披露、シコの踏み方を子ども達にも教えたり、相撲部学生を相手に取り組みをしたり、と楽しい時間を持つことができた。とりわけ、相撲の取り組みは、体育館に集まった保護者の方・先生方の声援で盛り上がったひとときだった。相撲部学生が手加減をして子ども達と対戦していたが、今度は子ども達が懸命にまわし姿の相撲にぶつかっていていた姿が印象に残った。



相撲交流の後、6年生の保護者の方々から私たちと子ども達に対して、かき氷のもてなしを受けた。場所を家庭科室に移し、家庭より持ち寄られた手回しのかき氷器で作っていただいたかき氷は、フルーツもたくさん載っていて甘さと冷やっこさが、気持ちよく私たちの心に沁みた。かき氷を食べながらのおしゃべりもまた、楽しい交流の場となった。



アンケートより

長浜小学校の子ども達、そして先生方に今回の交流授業・実践の感想を書いていただき、後日郵送していただいた。以下はそのアンケートの記述である。

長浜小学校の子ども達の感想

- ・今日は、とても楽しいことをしてくださってありがとうございます。つな引きでは、5人では勝てなかったのがうれしかったです。すもうでは、高木さんに勝てたのがうれしかったです。3人でケンちゃんと勝負できたのがうれしかったです。1日1食3合食べると聞いたときとてもびっくりしました。今日はありがとうございました。(男子)
- ・今日は、つな引きをしたり、すもうをしたり、とても楽しかったです。ありがとうございます。すもうがすごくよかったですし、つな引きの強さには、びっくりしました。またつな引きがしたいです。ぜひまた相手になってください。最後にもらったペンも、ありがとうございました。またここに遊びに来てください。そして、サッカーやすもうなどもしてください。次はつな引きぜったい勝ちます。(男子)
- ・今日は、すもうや、綱引きなどができてとてもうれしかったです。おすもうさんを初めて見て、とてもすごかったです。つな引きも、1回、2回くらい勝ててとても楽しかったです。1人でも勝てないと思ったけど、2人、3人でも勝てて、とってもたのしかったです。3対3のすもうで勝ってよかったです。また、すもうやつな引きをしたいです。(女子)
- ・おすもうさんに会ったのは、初めてだったのでうれしかったです。テレビでしか見たことないので1人には勝ちたかったので、大山さんに勝った時はとてもうれしかったです。つな引きも1人でも負けると思っていたけど4人に勝てたのでよかったです。十五夜ですもうをいつもするけど、すもうとりの人とするといつもとちがってやるきができました。本当にありがとうございました。とても楽しかったです。(女子)
- ・つな引きとすもうでとても楽しくできました。はじめてのすもうでいいけんができました。つな引きで負けたのがすごくうれしかったです。だから次は、かちたいと思います。すもうでは、すもうがすごくむずかしいことがわかりました。すもうの人は、からだがやわらかいこともわかりました。私は、からだがかたいのですもうの人みたいになりたいです。(女子)
- ・つな引きやすもうはひさしぶりにしたのでよかったと思います。つな引きは、すごく力が強くて3回は勝ったけど、最後は、負けちゃったけれど、いい経験だったと思いました。すもうは、おすもうさんとやったことが、初めてだったけれど、勝てて、よかったです。いい体験でした。おすもうさんが毎日やっていることが、いろいろ聞けたので、わかりました。いい体験でした。とても楽しくて、わくわくしました。本当にありがとうございました。こしのし方なども教えてくださりありがとうございました。(女子)
- ・今日は、初めておすもうさんと体育館でおすもうができてよかったです。つな引きもたくさんできてまたやってみたいなと思いました。すもうでは、すごく強かったです。つな引きもすごく楽しかったです。昼休みや、そうじ時間の時も遊んでくださってありがとうございました。すごく楽しかったです。最後に質問もたくさんできて、よかったです。本当に今日はありがとうございました。またいっしょにすもうをやりたいなと思いました。(女子)
- ・大学生とつな引きやすもうができて楽しかったです。つな引きでは、まけてうれしかったけどいっしょにつな引きをできてよかったです。すもうでは、2人に勝ててうれしかったです。足を上げる体そうは、すごくつか

れたけど楽しかったです。最後の質問では、すもうのことをいろいろ知れたのでよかったです。今日は、すごく楽しかったです。ありがとうございました。(女子)

- ・大学生の方とすもうができて楽しかったです。一番強い方とすもうができたのでよかったです。つな引きでは、2勝できたのでよかったです。大学生の方たちはとても強かったです。しこというのも初めて知りました。私は、体がかたいので足があまり上に上がりませんでした。今日はとても楽しくできました。おすもうのやり方も知れました。今日は本当にありがとうございました。(女子)

保護者の感想

- ・余り声を出さない子供達が、とびっきりの笑顔で楽しく過ごしていたので、親として、とてもうれしかったです。子供達の笑顔が一番です。また機会があったら、子供達と遊んでやってください。本当にありがとうございました。
- ・子供達も楽しみにしていて、綱引き、すもうと楽しい時間を過ごすことができました。島という場所なので、大学での様子など子供達のみたことのない世界のことを教えていただければと思います。
- ・楽しい時間を過ごす事ができ、子どもたちにもよき思い出となりました。又交流の場を持たらうれしいと思います。
- ・初めての事だったので、子供達も良い思い出が出来たと思います。ありがとうございました。
- ・すもう部の方々と接するチャンスが今までなかったのですが子供達はとても楽しい時間を過ごす事ができました。本当にありがとうございました。良い思い出が出来たと思います。
- ・とてもいい交流会(レク)だったと思います。なかなか本格的なすもうをとった事がなかったと思うので、子ども達にとっていい経験ができたと思います。

《長浜小学校での実践の成果と課題》

- (1) 今年、昨年の小学校と連携した取り組みではなく、長浜小6年生の保護者(PTA)の方々
と連携した取り組みであった。年は留学生たちが授業をするうえでもっとも難しかった時間配
分もほぼ適切な交流授業が進められた。これは、学生達が事前に細かな打ち合わせをし、可能
な限り万全な準備をして臨んでくれたためだと考えている。また、日本人学生の進行役を付け
たことも時間管理が順調にいった要因であったと考えられる。そして何より、長浜小学校の子
ども達の素直さ・真っ直ぐさに私たちはいちばん助けられた。事前に長浜小学校の先生方が、
今回の私たちの訪問にさきがけ、子ども達に「韓国」について「韓国語のあいさつ」などの学
習をしてくださっていたのが、子ども達の動機づけにもなり、多大な効果があったと、感謝し
ている。それは、給食時間の交流を通して、学生と子ども達が楽しく交流を深められた大き
な要因となっていると考えられる。給食での交流は非常に意味があったと感謝している。
- (2) チェギチャギコンテストでの景品配分の失敗は、大きな反省点である。そのため昼休み時間
をオーバーしてしまい、子ども達にも不安な思いをさせてしまった。(後日、誤配布分の景品を
送らせていただくことになった) こうしたミスを快く許していただいた子ども達と先生方に
感謝してやまない。些細なことであるかもしれないが、子ども達にとっては重大な問題である
と痛感し、今後こうしたことがないよう、さらに万全の準備をして臨んでいきたい。

(3) 壁画づくりのお手伝い

9月26日(金)午前中 西山から手打ちに向かう車道の三叉路

地域おこし協力隊の小泉さんの呼びかけもあり、私たちは車道の側面に壁画づくりのお手伝いも行った。この取り組みについて、学生たちは次のようにレポートしている。

「瀬々野浦から手打ちに向かう途中(車道)の三叉路の路側壁画づくりのお手伝い。この三叉路は道路標示もなく道に迷いやすいため、道案内も兼ねて瀬々野浦の子ども達らを中心に壁画づくりが進行中の場所です。

そのお手伝いとして、私たちも壁画の色塗りや製作を実施しました。私はカメの色塗りをしました。が、何しろ絵のセンスがなかったもんで、仲間とワイワイ相談しながら、なんとか描き上げました。いい作品に出来上がったと思います。相撲部のメンバーも、道路の壁面にペンキで絵を描くなんて経験ははじめてなので、ワイワイと楽しく取り組んでいました。」

この取り組みに対して、私たちはやはり受動的な参加に留まった。既に地域の有志によって進行している壁画づくりのほんの一端を担ったに過ぎない。ただ、この取り組みを通して、学生たちが、地域おこし協力隊の方々の地元地域と連携・協力して取り組んでいることの実際に出会ったことは大きな意味があったと感じている。学生のなかには、自らの卒業研究のテーマを深めるために、地域おこし協力隊の方との交流の中からさまざまな示唆を得ている者もいることは評価すべき点なのかも知れない。



(4) 情報発信

今回の「アイランドキャンパス」では、情報発信を Facebook ページに限定して実施した。

「九州情報大学 地域情報センター Facebook ページ」
<https://www.facebook.com/kiis.ai.center>

発信内容は、以下の項目であった。

- ・ 交流の様子のレポート
- ・ 大学生が出会った“甕島”レポート

情報を専門に学ぶ本学の特性を活かして、私たちの活動や甕島での発見を、インターネットを通して発信していくことは重要なことである。しかし、毎回十分にそれを実践しきれていないのが実状である。

基本的に Facebook ページでの情報発信は学生たちによる分担で、彼らがコンテンツを作成し発信作業を実践した。担当者は、每晚遅くまで掲載写真を選定し文章を書き、情報コンテンツを作る。このコンテンツを有効かつ迅速に構成する力が弱い。これは彼らに文章表現能力が十分に身につけさせきれていないことに起因する、今後の大きな課題の一つである。

今回は、本学「地域情報センタ」の Facebook ページを活用しての情報発信であった。



(5) 「甕島」の体験を、他の学習・研究活動へとつなぐ取り組み

学生たちが、甕島での「アイランドキャンパス」の体験を大学生活における他の活動と繋げていくことは大切なことである。「アイランドキャンパス」をその場かぎりのことにせず、学生たちの大学における他の活動領域とリンクさせた取り組みへと広げることを目指した取り組みも、私たちは実施してきたところである。

- ① 「アイランドキャンパス」実施前の事前学習・事前調査
- ② 学園祭での「甕島フェア」の開催
- ③ 学園祭での「アイランドキャンパス」報告会の開催
- ④ 卒業研究のテーマに甕島をフィールドとする取り組み

これらの項目に取り組んで行くことを通して、「アイランドキャンパス」での体験を支点とした総合的な学習・研究・実践の場を創出することを目指している。そのことは、学生たちにとってより大きな経験へと繋がっていくものであり、そこから学び、自らの成長にも繋げてほしいとのねらい・ねがいもある。

① 事前学習・事前調査の取り組み

「アイランドキャンパス」の実施地・甕島についての事前学習は重要である。今年の参加者は昨年から

ら継続参加の学生も多く、既に甌島について情報・知識を持っていた。今年からはじめて参加する学生は、はじめて「甌島」と出会うべく、春休み時期を利用して甌島に上陸する事前調査を実施した。まず、甌島の風と光と人に出会うことから始めた。

その後、これまでの本学の「アイランドキャンパス」の報告書や甌島関連の文献なども参照しながら、甌島についての知識を深める学習も行った。また、今年度の計画立案を練る過程と並行して、現地との打ち合わせも兼ねて再度中心メンバーが甌島を訪れるという事前調査も実施した。

実際の事前調査の実施は、以下の通りである。

- ・3月1日～3日 第1回事前調査(下見) 下甌島・下甌町(現3年生3名・現3年生1名+担当教員)
- ・3月21日 「甌島地域振興シンポジウム」へ参加[於:薩摩川内市国際交流センター](現4年生1名+担当教員)
- ・6月21日～24日 第2回事前調査(下見) 上甌島&下甌島瀬々野浦+薩摩川内市(担当教員)
- ・8月19日～20日 第3回事前調査 瀬々野浦地区・運動会参加の打ち合わせ(4年生3名+担当教員)

これら事前の取り組みを通して、「アイランドキャンパス」の実施について、ただ単に「参加する」対象としてではなく、自ら主体となって取り組む「参画主体」としての姿勢を身に付けて欲しいとの願いがあった。しかし、現実とはなかなか思惑通りには進まないのが現状であり、今後の大きな課題である。それでも、学生たちにとっては、甌島は特別に意見づけられた場所(対象)となっていたことは確かであろう。

学生達の経済的負担を強いることは忍びないが、今後も事前調査の試みは続けていきたいと考えている。

② 学園祭での「甌島フェア」の取り組み

「アイランドキャンパス」の中核を担った平田ゼミの学生を中心として、11月8日・9日に開催された本学の学園祭において、模擬店の一つとして「甌島フェア」を企画し出店した。この取り組みは、昨年に引き続いて2年目の試みである。

一昨年来、私たちが出会ってきた甌島のおいしいものを販売し、来場・来店される多くの人たちに甌島について知ってもらおう、というのが趣旨である。

昨年の取り組みの成果と教訓を踏まえて、今回の取り組みはさらにグレードアップしたものとして進められた。

販売した品は、以下のとおり。

- ・里町・山下商店の
ジェラート(紅はるか)
大豆バター
- ・里町・甌島グルメ館 Hiramine Farm の
島アロエジャム
島アロエのハーブソルトラート
- ・下甌長浜・幸栄丸の
キビナゴ(生・冷凍)
タカエビ(無頭有頭各種・冷凍)
アオサノリ



- ・下甌長浜・レストラン OTTO8 の
タカエビ真薯（冷凍パック）
- ・下甌手打・有馬新七さんの
こしきの塩、クリスタル塩、還元力塩

上記以外でも、イーテイン形式で、

- ・キビナゴの揚げ物、タカエビの揚げ物、タカエビ真薯の揚げ など

の販売も行った。これは昨年度より品目・数量とも増え、仕入総額 24 万円にも及んだ。

また、下甌手打の「こしき海洋深層水」の協力も得て、10 リットルボトル 3 種を試飲用のサンプルとして提供していただき、来訪者に紹介することも出来た。さらには薩摩川内市観光・シティセールス課の協力も得て、薩摩川内市および甌島のパンフレット等のご提供もいただいた。

これらのみなさんに感謝である。

こうして、「甌島を知ってもらおう」ためのアイテムも昨年よりも充実させ、今年の「甌島フェア」は開催された。

ご来店いただいたお客さんの評判もよく、イーテイン商品はどれも美味しいと好評であったし、学生たちも積極的に甌島について知っていただこうと語りかけていた。

今回の取り組みは、昨年よりも学生たちが、主体的・積極的に取り組んだのが大きな成果である。販売商品の事前予約として、精力的に大学周辺地域に個別訪問し売り込みに行く姿もあった。それらの取り組みが、幾ばくかの利益にも結びついていった。

この取り組みは、「アイランドキャンパス」への参加のひとつの成果でもあり、それをテコにした学生たちによる自主活動として広がりの実践として、今後とも継続して発展させていければと考えている。



③ 学園祭での「アイランドキャンパス」報告会の開催

「甌島フェア」の開催と並行して9日（日）午後、学内の教室において、私たちの「アイランドキャンパス」の報告会も開催した。これも昨年からの継続した取り組みである。内容は以下の通りである。

1. 甌島の概要
2. 「アイランドキャンパス」とは
3. 昨年までの「アイランドキャンパス」の取り組み
4. 今年の「アイランドキャンパス」の実践報告
5. 4年生の卒業研究テーマの紹介
6. 「甌島フェア」の紹介



参加者はさほど多くはなかったものの、参加された皆さん・先生方から、質問や意見も活発に出され、「甌島」をフィールドに卒業研究をしている4年生にとっても示唆に富む意見も聞くことができ、有意義な時間となった。

本学の「アイランドキャンパス」事業への取り組みとしては、卒業によって入れ替わっていく学生たちをどのように繋いで持続可能で発展的なものとして、いかに継承・継続していくのが、これからの大きな課題となるだろうことを実感した場ともなった。

発表した平田ゼミの学生達は、11月末の滋賀県彦根の聖泉大学との合同ゼミ（こちらから実施している）の場でも、この報告会の発表内容も含めてプレゼンテーションを行う予定となっている。

④ 卒業研究のテーマに甌島をフィールドとする取り組み

「アイランドキャンパス」の中心主体であった平田ゼミ学生は基本的に甌島をフィールドとした卒業研究テーマを設定し取り組んでいる。

- ・ 甌島の「地域おこし」についての研究 ～古道再生プロジェクトを中心に～
- ・ 下甌島瀬々野浦・西山地区のコミュニティ組織の研究 ～「島立ち」と過疎化～

以上が学生が掲げている卒業研究のテーマである。

それぞれかなり呻吟しながら研究活動を進めているのが実際に、学生個人により進捗状況もばらつきがある。しかし、それぞれが甌島から学んだことを懸命にまとめようとしていることは確かであるし、客観的な評価のほどはともかく、主観的には意味ある卒業研究として成果物を完成させて欲しいと願っている。

この卒業研究へ繋げる試みは、本来最も重視させるべきことがらであると考えている。しかしながら、指導する私の側にも力不足のところがあ、り、学生たちに的確な方向づけやサポートが出来てないことは否めない。これまで、交流体験を中心に据えてきた甌島での「アイランドキャンパス」の活動を、学術的なフィールドでの取り組みへと止揚していく体系的なデザインが要請されていると痛感している。

6. 参加学生の感想

「島立ち」する中三生との出会い

2121019 徳元 伸太郎

今回のこしきアイランドキャンパスでは西山地区の運動会に参加し、西山コミュニティの皆さんにちゃんこ鍋を振舞うという計画のもと、甌島へと向かった。甌島へは一度、視察で訪れていたが今回は運動会へ参加するという事で「私たちを受け入れてくれるか」など不安な気持ちと、また甌島の豊かな自然と触れ合えると思うと高ぶる気持ちもあった。

最初の方で少しアクシデントがあって私は焦っていたが4年生の先輩らは冷静で、すでに甌島に着いてからの行動を考えていたので感動した。今回、宿泊させてもらった民宿「浦島」さんでも学生だけでミーティングをし、明日の活動について具体的に何時に出発し、移動手段はどうするかなど4年生の先輩らが円滑に進行してくれたので不安なく眠りにつくことができた。

小学生と触れ合っただけの印象は人見知りな子が少なく抱き付いて来たり、手を握ってくれたり人懐っこい子が多かったのが印象的だった。これも島の環境がそうさせているのではないだろうか。島にはゲームセンターなどといった娯楽施設があまりなく外で遊ぶことで人と人との繋がりを大切にしているのが都会とは違い素晴らしいと思った。

そして、いよいよ運動会当日。およそ100名の西山コミュニティの方々が集まり運動会が始まった。リレーや綱引き、じゃんけん大会など様々な種目の競技があった。私は「だいきめ」という競技に参加した。名前からどんな種目か想像ができなかったが、走って行ってじゃんけんをし、勝ったら色のついた水をペットボトルにいれ溜めていくという種目だった。後で調べてみると鹿児島の方で「晩酌」の意らしく、その地域ならではの発想が面白いと思った。昼食時に振舞ったちゃんこ鍋も好評で皆、口を揃えて「おいしいね、

おいしいね。」と褒めてくれた。また、「運動会に来てくれてありがとうね」「甌島に来てくれて本当に嬉しい。また来てね」などと声を掛けてくれて、私たちを受け入れてくださっているようで嬉しかった。運動会の打ち上げの場でも何気ない会話をしたり、一緒にカラオケを歌ったり私たちが島民と同じように接してくれたのがとてもうれしかった。

打ち上げの後、西山コミュニティの方の家に招待され、そこでひとりの中学3年生の男の子と出会った。その子に「星が綺麗に見えるところあるから一緒に行こう!!」と誘われ外へ出て一緒に歩いていった。あたり一面真っ暗で虫の音が聞こえるだけの静かな道で男の子は真っ暗ななか、迷うこともなく歩いていく。私たちはそれについていくのが精一杯だった。真っ暗の野が怖かった。しかし、星が見えるところについたら、先ほどまでの恐怖を忘れさせるぐらいの満天の星空が広がっていた。男の子は来年には甌島を離れ高校へ進学するという事で希望に満ち溢れているようだった。私たちに「高校はどんなところだった?」「部活は楽しかった?」など星空をみながらたくさん質問してくれた。とても純粋な子で島の環境がそうしたのでないだろうか。私は甌島へ訪れてこの子と出会えたことがとても嬉しかったし、感動した。この子がこれからどういう風に成長していくのか見届けたいとも思った。こういった子が島にはたくさんいると思うといろいろな子とコミュニケーションをとってみたいとも思った。

今回、こしきアイランドキャンパスを通して甌島の人とコミュニケーションを経て私が今まで感じたことのない島民の暖かさを感じたことができたと思う。これからも甌島はこういった暖かい人間性を次の世代、さらにまた次の世代へと引き継いで欲しいと思った。

私もそんな暖かさをもった人間になろうと思った。

助八古道を歩いて…

～昔の島の暮らしに少しだけ触れた

2111009 浦川 敦志

私は、本年度で2回目の参加となりました。前年度までは、韓国人留学生が韓国語講座や韓国の遊び、料理を通じて交流を行いましたが、本年度は、相撲部の学生が相撲の取り方を教えたり、ちゃんこ鍋を提供したりと前年度とは違う交流を行いました。

今回のアイランドキャンパスで学んだことは、大きく2つあります。

まず一つは、瀬々野浦の区長・宮野安弘さんのガイドで助八古道を歩いたことで、瀬々野浦の住民が昔どのような生活していたのかを話を聞きながら少しですが、体験する事ができたことです。

この助八古道とは、この道は西海岸の瀬々野浦から東海岸の青瀬までの山越えの道で、かつて申道がまだ整備されていなかった時代、人々が歩いて往来していた古道になります。数年前から安弘さんが昔歩いていた道を思い出しながら復活させている道です。今回は瀬々野浦から小一時間ほど登ったところにある助八水というところまで登ったのですが、古道に入ると草木がたくさん生い茂っており、急な坂道などたくさんありました。本当にこの道を歩いているのか信じられないところもありましたが、安弘さんの話を聞いて、「昔は深夜2時にこの古道を歩いて港まで行っていた話」や「小学校2年生では青瀬までの往復をしていた事」を聞きました。この古道を歩いてみて、自然豊かな山を登ることが出来たと同時に、生活に利用されていた道というのを歩きながら感じる事が出来ました。そして、次回は是非、東海岸の青瀬の港までの全行程を歩いてみたいと思いました。

二つ目は、長浜小での交流です。甌島の小学生は、相撲を取る人を初めて近くで見たのではないかと思います。長浜小学校の子ども達は、相撲部の学生と相撲を何度も取り合っていました。相撲部でもない私にも、相撲勝負を挑んできたりもしました。私は、このような交流の場がないと子ども達と遊ぶということはありません。また、長浜小の子ども達も大学生と交流することがないかもしれません。なので、

お互い、実のある交流ができたと思っています。私は、今回の交流を通じて、子ども達にとっても、私たちにとっても、良い学びの場になっていたと感じています。

米年行った際に、長浜小学校の子ども達が私たち大学生をどれほど覚えてくれているか、それが今回の交流の成果になるのかも知れません。ぜひ来年以降もより良いものを作っていきたいと思います。

今回のアイランドキャンパスでは、相撲を交流のきっかけにして、小学生や島民の方の体験の場となっていたと感じています。私も、助八古道を歩くことで、昔の瀬々野浦の住人の暮らしを少し知ることができました。これから、卒業研究を通じて、瀬々野浦の地域振興をしていく中で今できることを提示できるよう研究していきます。

「じゃんけん大会」で優勝！

卒業研究もがんばる

2111017 神田 裕

今年もアイランドキャンパスに参加しました。去年は韓国人留学生による韓国語講座をやりましたが、今年は相撲部が参加してくれました。今回の甌アイランドキャンパスで印象に残ったこと成果になったことは二つあります。

一つ目は、日曜日に行われた西山地区の運動会です。今年は相撲部によるちゃんこ鍋の提供がありました。私はちゃんこ鍋の係でしたが、去年運動会に全く参加できなかったのもちゃんこ鍋は浦川君にまかせっぱなしで運動会に参加しました。

そして、たくさんの競技に参加した結果じゃんけん大会で「優勝」することができました。お昼になりちゃんこ鍋を提供し、たくさんの方に食べていただく事ができました。なかにはおかわりもしてくださる方もいて、とても嬉しくなりました。

二つ目は、最終日にやった卒論の研究活動です。

島の人たちにインタビューをしていて、たくさんのお話を聞くことができました。その中に

は、今と昔の島立ちの違い、昔自分が島立ちをして自分が親になり子供が島立ちする時の気持ちなどを知ることができました。これは私が卒論の完成させるために大きく進歩しました。近いうちにもう一度甌島に戻り、アンケート調査やインタビューを再度行い、卒論を完成させていきたいと思いました。甌島の人たちのことをもっともっと知りたいと考えています。

今回甌アイランドキャンパスに参加をして、運動会でのちゃんこ鍋の提供では、「ちゃんこ鍋おいしかった」「相撲部がきてくれてよかった」などの声を聞くことができました。島の人にインタビューしたことも自分が卒論完成に向けて進むことができたのでとても有意義な「アイランドキャンパス」になりました。

カメラを通して見た島の人々の表情

～今度は自分のカメラで撮りたい

2111047 横沼 雅之

去年に引き続き今年も甌島で開催した「こしきアイランドキャンパス」今年の僕の役割はカメラ撮影係である。去年のビデオカメラ担当とほぼ同じ役割。去年のビデオカメラで運動会や小学生との交流で島の人達の表情を撮ることに喜びを覚えて今回もカメラ係として参加した。僕はもう4年生だからもう来年は学生として参加することはできなくなるから、最後の大学生活の思い出としてアイランドキャンパスの写真をたくさん撮っておきたいと思った。

今回のイベントを撮っている中で特に印象に残っているのが、瀬々野浦での運動会である。長浜小の小学生達との交流も印象深いのだが、やはり老人から子どもまで参加する瀬々野浦運動会の様子を撮れたことが嬉しい。

必死に競技に打ち込んだり楽しみながら競技をしたりする人達の表情を撮るのは良いものであると改めて思った。自分は写真を撮る係のため運動会には参加していないが、その代わりにいろいろな表情を撮れたから非常に満足である。

お昼休憩の時には相撲部が提供したちゃんこ鍋を食べている様子を撮っていった。美味しそうに食べ

ている様子を撮れてホントに良かった。一生懸命に作ったちゃんこ鍋を美味しそうに食べてくれて相撲部も満足な笑顔を浮かべていた。参加していた九州情報大学の学生たちも運動会を楽しみながら島の人達とコミュニケーションをとっていた。元気に運動会に参加しているお年寄りの方々には驚かされる。甌島の老人パーティーはまだまだ悔れないと思った。5時間程度の運動会であったけれど、楽しそうなみんなの写真を撮れたのでカメラ係をやっている本当に良かったと思った。

僕以外の学生にも写真を撮っていた人がいるので皆このアイランドキャンパスの楽しそうな様子を撮りたいだなと思った。今年で僕の学生としてのアイランドキャンパスは終わるが、可能なら来年以降も参加できればと思っている。あんな楽しい島でのイベントに参加しないなんて絶対にもったいないと思う。その時には借り物のカメラではなくて、ちゃんと自分のカメラで甌島の景色や島の人たちを撮ってみたい。

大学生活 最後のアイランドキャンパス

～いい思い出ができた！

2111027 末吉竜之介

今年私は二回目の参加です。去年は韓国の留学生が主体となってアイランドキャンパスに臨んだのですが、今回は相撲部の学生が参加してくれるということになり、相撲部の学生が中心となりアイランドキャンパスに臨むことになりました。

4泊5日の下甌島での滞在。初日から甌島行きのフェリーがエンジントラブルを起こし欠航になるという事件が起きました。正直欠航になったときは焦りました。臨時に高速船が出ることになり、私たち学生は先に甌島に行くことになりました。先生達は車を運ぶため翌日以降来ることになりました。先生達がいなくて大丈夫かなと思いましたが、なんとか私たち学生たちだけで甌島に上陸することが出来ました。

翌日は朝から壁画の色塗りの手伝いをしました。私たちはなんとか頑張りがりながら色塗りを手伝いましたが、正直あんなので良かったかなと少し不安な部

分もありました。でも、壁画を見た島の方も「いいね!」と言ってくれて一安心でした。

午後は長浜小の子供たちと、主に相撲部が綱引き対決や相撲のやり方を教えたりして交流しました。綱引きは子供たちがかなり強くて相撲部をはじめ私たち学生を驚かせてくれました。休み時間には子供たちと鬼ごっこやサッカーをして交流をしました。子供たちはみんな元気で、子供のパワーを改めて感じました。

その後半田ゼミの生徒以外は観光に行き、ゼミ生はパーベキューの準備をしました。パーベキューでは飲みすぎて次の口が少し気持ち悪かったです。でもこういう機会がないとパーベキューをする機会がないのでいい思い出になりました。

4日は西山地区の運動会に参加させていただき、昼食時にはチャンコを振る舞いました。相撲部が運動会競技に参加していたので、私は基本的にチャンコの係をしていました。運動会に参加していただいた皆さんが、「おいしいね」と言っていただき嬉しかったです。

運動会が終わって、去年同様打ち上げに参加し、島民の方たちと交流をしました。なかなか行くこともない瀬々野浦唯一のスナックにも行き、いろんな話を島の方たちとすることができて本当に良かったです。

4年生である私は、学生としてアイランドキャンパスに参加するのはこれが最後なので、最後にいい思い出が出来てよかったなと思いました。これからは甌島へ行く機会は減ると思いますが、時間があるなら時間を作ってでもまた行きたいなと思います。

あと去年6月のイカ釣り大会で上甌島に行ったときは一杯もイカが釣れずに悔しい思いをしているので、イカ釣り大会にもまた参加できたらいいなと思っています。

故郷の沖縄の島に帰って来たようで…

～来年はまた成長して参加します

2141502 大田 咲綾

アイランドキャンパスに3・4年生ばかりのなか、私はただ一人の1年生として参加させていた

できました。

こしき島は、私の生まれ育った沖縄県に島の雰囲気や島の方々の接し方が非常に似ていると感じました。なので、島に来ているというよりは沖縄県に帰ってきたかのようなとてもリラックスできる環境の島だと感じました。

甌島では、相撲部の参加は今回が初めてということで島観光ということで海へ行ったり、海洋深層水工場の見学をしたりと島ならではの観光ができ非常に楽しむことができました。

また、長浜という地域にある小学校へも行き、島の小学生たちと一緒に遊んだり触れあえる時間もあり、普段小学生と触れ合うこともできない私としてはとても良い体験になりました。

地域の運動会へも参加させていただきました。運動会では、私たち相撲部は廻しを着けて参加し、島の一般の方々や、小学生中学生達と短距離走や瓶倒しなど様々な種目で勝負することが出来ました。また、私たち相撲部の出し物では島の方々と相撲をとったり、四股の踏み方を教えたりと相撲についてもいろいろと知っていただけだったので良かったです。

また、ちゃんこ鍋も地域の方々に振る舞うことが出来、美味しいと言ってくれたので嬉しかったです。運動会での打ち上げでは、島の方々と交流をして、いろいろな話をすることができ、普段あまり話すことの出来ないおじいちゃんたちとの会話でまた私自身の考え方や、コミュニケーション力を高めることができたと思います。

今回、このアイランドキャンパスに参加させていただき本当に感謝でいっぱいです。次回も呼んでいただけるという話を頂けてとても嬉しいです。今回は初めてと言う事で手順なども分からず先輩方に頼ってばかりだったので、次回は自分から積極的に考え行動し今回より皆がもっともっと楽しめて、いろいろなことを学べる環境を自分から作っていけるようにならないといけないなと感じました。今回の参加で反省点がいくつもあったので、次回行ったときには今よりもさらにパワーアップして、より島の方々にも楽しんでいただ

けるようなコミュニケーション力や相撲の力などもつけておきたいと思います。

今回の経験を無駄にしないように、日頃からコミュニケーションを積極的に取ることやどうやったら大勢の方に楽しんでいただけるかなど少しでも出来る事から始めていってみようと思いました。今回の経験は私にとっても、相撲部にとってもプラスになることでした。

本当に、ありがとうございました。

甌島が好きになりました！

～また、来年も来ます！

2121021 林 健太郎

私は今回、相撲部の一員として鹿児島県薩摩川内市に属している甌島に行ってきました。私は個人的に前から甌島に行ってみたいと思っていたので、本当に楽しみでした。

初日は朝、西鉄二日市駅を出発して薩摩川内市役所を訪問してフェリーに乗り込む予定でしたが、目の前にいるフェリーが突然の欠航に…。どうなるかわかりませんでした。学生たちだけで、高速船に乗り換えてなんとか甌島に行くことができました。長浜港からバスで30分ほど、無事に民宿「浦島」に着きましたが、夜だったので景色が見れず残念でした。しかし、星がとても綺麗なのに驚きました。「今まで見た中で一番」でした。民宿の夕食もとても豪華で美味しかったです。

2日目は民宿近くのお寺「西浄寺」のお朝事にいきました。正直眠いし足が痛かったけどすごくためになるお話を住職さんがダジャレも交えて法話してください楽しかったです。朝食後、壁画を書きに行きました。私はあまり上手く絵を書くことができませんでした。

午後は長浜小学校に行きました。小学校の先生が特別に昼休みを延長してくださったので、たくさん子ども達と遊ぶことができました。その後は六年生九人との綱引きでした、完全になめていたので二人くらいで大丈夫だと思ったのですが、見事にやられました。結局2対2の引き分けで終わりました。そのあとも相撲を取ったり、たくさん質問に答えた

り、一緒にかき氷などを食べたりしてとても楽しい時間を過ごしました。子ども達が、僕たちの訪問を本当に嬉しそうにしていたので、来てよかったなと思いました。その後下甌島の北部の壮大な自然の景色を見ました。どれも圧巻でした。

3日目は鹿島小学校の運動会を見に行ったり、その周辺を散策したりしました。鹿島地区は昔漁村で栄えたところであり、その当時の建物が国指定登録有形文化財になっていました。

午後は西山地区運動会の準備でした。ほとんど若い人がおらず5、60代がまだ若手でした。島全体が高齢化なんだと肌で実感しました。でも、みなさんととても若々しく元気でした。

ちゃんこの準備のために公民館に行く途中、西山地区のスーパーに寄りました、ここで1万円札を崩そうとしてジュースを何本か買をおとしましたが、いいよと言ってくれておまけにミカンまでもらってしまった。初めて会ったのにすごく嬉しかったです。

4日目は西山地区の運動会。子どもからお年寄りまでほんとうに皆笑顔の絶えない運動会でした。自分たちの作ったちゃんこも沢山食べていただきました、みんなからとても美味しかったよと言ってもらえて作ってよかったなと思いました。運動会の中の相撲部の出し物もとても喜んでもらえました。

最終日は朝から島内のたくさんの名所をめぐりました。お昼ご飯の Pasta やピザは絶品でした。最後に見送りに来てくれた島の人たちとの別れが辛かったですが、来年も必ず来たいと思いました。

この4泊5日で体験したことはなかなかできる事のないことばかりでした

最後に、感想をまとめると...

島民の方が皆優しい人たちばかりでした。その一方で高齢化が進み何十年後かには誰もいなくなってしまいう話も聞きました。こんなにいい島なのにと考えさせられる部分もありました。でもあと数年で上甌島と下甌島に橋がかかる予定なので便利になるのかなとも思いました。

下甌島にはいくつかの集落があったのですが、自分が思っていた集落のイメージとは違い結構一つの

集落にたくさんの家がありました。また、瀬々野浦にはほぼ3つの苗字しかないとのことで、下の名前を覚えるのが大変でした、

今回の体験で甌島が好きになりました。また来年も参加したいです

とても有意義な5日間

～子ども達は 強い！

2111028 高木 剛

出発の日にフェリーのエンジントラブルで車が渡れず「学生だけで甌島を目指す」ことになり、とても心配になりました。しかし、前回にも行った人たちが先頭に立ち無事に着くことができました。また、西山のコミュニティセンターでは区長さんや民宿の中村さんが待っていてくださり、はじめて行った僕たちを受け入れてもらい嬉しかったです。

二日目は朝から西浄寺のお朝事に行きました。お朝事では、住職さんがなぜお彼岸があるのか、おにぎりの由来はどこからきているのかをお話してくださいました。朝早かったけどとても貴重な経験になりました。

そして壁画を塗りに行きました。地域の町おこしの一環としての取り組みのお手伝いですが、私たちは既に書いてある絵に色を塗るという作業をしました。海の生物を塗るときにその物にとらわれずに塗るようにと言われたので私たちが来たとわかるように派手な色で塗ってきました。いい思い出にのこりました。

昼からは長浜小6年児童との綱引き交流でした。はじめ私たち相撲部は二人でも余裕で勝つことが出来るのではないかと軽い気持ちで臨んだのですが、結果はすぐに負けてしまいました。子ども達、強い！ とても悔しい思いをしたので、次は相撲部4人みんなで勝負しました。とても苦戦しましたが勝つことが出来ました。マジでうれしかったです。なんか大人げなさが出て少し恥ずかしかったです。その後、シコを踏んだり、子ども達と相撲を取ったりしてとても有意義な時間を過ごすことができました。子ども達が書いてく

れた感想の中に私の名前があったのでとても嬉しかったです。

三日目は町民運動会の準備でした。体育館で行うためそこまで時間はかからないと思いましたが、体育館を掃除したり、テントを立てたり、住民の方々と一緒に準備することができました。重い荷物は、私たち相撲部の担当です。私たちのお手伝いが役に立っていればこんな嬉しいことはありません。

四日目はいよいよ運動会への参加です。運動会では、相撲部はまわし姿で参加しました。私はこの運動会に参加するのがとても楽しみでした。走ったり、ペットボトルに水を入れたり、玉入れをしたりととても楽しかったです。また、高齢者専用の種目で楽しそうにやっているおばあちゃんがかわいかったです。

運動会が終わり、打ち上げ会では地域の方々とお話をしてとても楽しかったです。打ち上げが終わり、住民の方のご自宅にも呼ばれ、そこの子供といっぱい遊びました。またそこで食べたエビはとてもおいしかったです。本当にお世話になりました。

五日目は観光でした。海洋深層水の工場にも行き、どのようにして海底から深層水を汲み取っているのかの説明も聞くことができました。

この5日間とても有意義な時間でした。私たち相撲部も参加させていただきありがとうございました。今度はプライベートで行きたいと思いました。

最後に関さんたちが取り組んでいる地域おこし協力隊にも機会があったら参加してみたいと思いました。私の地元長崎県でも、五島や壱岐・対馬で過疎化が進んでいるのと話を聞きます。そこでも地域おこし協力隊のような取組があるのかどうなのか知りたくなりました。

「アイランドキャンパス」の5日間

～とても温かく迎えてくださった

2111038 東名 聖司

今回の「こしきアイランドキャンパス」で、私

たち相撲部が甕島で相撲交流をするということを知り、聞いて初めのうちは不安や緊張でいっぱいでした。でも甕島の人たちがとても温かく迎え入れてくださったので、とても嬉しかったし、不安な気持ちも和らぎました。4泊5日と短い滞在でしたが1週間ぐらい居たような気持ちになりました。

申木野港での出発からフェリーのエンジントラブルで船が欠航し、到着時間はかなり遅れたけど無事に着くことができました。

2日目は西浄寺で初めて「お朝事」というものに参加しました。和尚さんがとても気さくな人でとても面白かったです。昼からは長浜小学校で子ども達と綱引きをしたり、一緒にレクリエーションをしたりして、子ども達との交流を深めました。夜にはバーベキューをして平田ゼミのみんなと交流しました。

3日目は島にある壁画の色塗りの手伝いに行きました。みんな手がペンキまみれになりましたが楽しそうに壁画を塗っていました。午後からは運動会準備の手伝いに行きました、思ったより早く終わったので私達はチャンコ鍋の準備に取りかかりました、野菜を切ったり、肉団子の下ごしらえをしました。

4日目は朝から西山地区の運動会に参加しました。私たち相撲部も競技に参加し、出し物をしました。お昼には運動会に来た人にチャンコ鍋を振る舞いました。おいしそうに食べてくれたので一生懸命に準備して作った甲斐があったと喜びました。運動会の打ち上げでは、みんながすごい量のお酒を飲むのでとても驚きました。2次会にも呼んでいただいて日付が変わるまで飲んだり歌ったりしてとてもいい思い出が出来ました。

最終日は、下甕島を観光しました。九州に一つしかない海洋深層水の工場を見学し、瀬尾の滝（観音三滝）も見に行きました。観音三滝では自然の力の凄さを全身で感じる事が出来ました。

その後、長浜港の近くのOTTO8というイタリアンでお昼ご飯を食べました。私はうまいと評判の「エビしんじょ丼」を頼みました。おいしい以外に言葉見つかからないほどおいしかったです。

港から出航する時に民宿「浦島」の大将や甕島でお世話になった方々が見送りに来てくださりとてもうれしかったです。

最後に今回の「こしきアイランドキャンパス」に参加して感じたことは、甕島の方々は、過疎化にも負けず、明るくたくましくそして楽しく人生を謳歌しているなど思いました。「こしきアイランドキャンパス」に参加して本当に良かったです。ありがとうございました。

二つの再会が

～卒業までにもう一度、甕島へ

2111015 川口 楓

私は今年のアイランドキャンパスをとおしてたくさんの再会がありました。

昨年長浜小学校での交流で出会った子ども達との再会、そして、瀬々野浦のみなさんとの再会。この二つの再会は私の心に大きく残るものでした。

長浜小学校では、今年は相撲部と6年生の子ども達との綱引き&相撲を通してのレクを中心に交流をしましたが、それにも増して私にとって盛り上がったのは昼休みでした。これが、一つ目の再会です。

1年ぶりに訪れた小学校で何人かの子は私のことを覚えていてくれて「去年司会をしていた人だ」と声をかけてくれました。ただそれだけのことですが、私は嬉しくなってしまう子ども達と鬼ごっこを始めました。すると、校庭にいた他の子どもたちも加わって、情報人のメンバーも加わって、あちこちでみんなが遊び始めました。子ども達と私たち学生の距離がぐっと近くなったと実感できた瞬間でした。そのおかげかその後の6年生との綱引きや相撲での交流も楽しい時間になっていったと思います。

そしてもう一つの瀬々野浦の人たちとの再会。これは今回のアイランドキャンパスで私が一番心に残ったものです。その中でもとりわけYさんとの再会です。

昨年のアイランドキャンパスでYさんと出会

いその自宅にお邪魔する機会がありました。その時、記念に Y さん宅の柱に私の身長を刻ませてもらいました。そのことはずっと私の心に残っていました。でも、Y さんはもう私のことをもう覚えていないのではないかと不安でした。

二日目の晩に私たちが浜でバーベキューをしているとき Y さんが突然現れました。Y さんは「楓！」と笑顔で話しかけてくれました。私はとても嬉しくなりたくさんのことを話しました。運動会の打ち上げの後、今年も Y さん宅にお邪魔することになり、今年も柱にモニュメントを刻むことができました。

民宿のおかみさんや区長さんをはじめ、たくさんの人とも再び出会うことができました。

たくさんの方との再会を通して私が感じたことは、人とのつながりの大切さでした。このつながりをつくるのはとても難しいことだと私は考えます。しかし、つながることができたなら今回のように再会を楽しみにできるように別れを寂しがるすることができます。つながりを通して「気持ち」や「思い」が積み重なっていくと思います。

私は今、また甑島へ行くことを計画しています。アイランドキャンパスではなく自分自身の足で甑島に行きたい。また甑島のみんなと再会したい。3月の卒業までに必ず甑島に、必ず行こうと考えています。

そうしたことを私に感じさせてくれたこのアイランドキャンパスはこれから先も世代を変え続けていってほしいと思っています。

私は やっぱり 甑島が 大好きです！

〈出会い—再会〉がくれた“光”

卒業生 原口 美紗樹

(現在 九州大谷短期大学1年在学中)

今年のこしきアイランドキャンパスは、昨年お世話になった方々との2つの再会がありました。

1つ目の再会は、私に光をくれた子どもたちとの再会です。昨年の私は、将来何をしたらいいの

か、何がしたいのか全く分からず、目標すらない毎日を過ごしていました。そんな時に西山地区の運動会があり、島の子どもたちと遊ぶ機会がありました。そこで、子どもたちからたくさんの笑顔をもらいました。この時、子どもたちと関わることの面白さを知り、私の中に一つの光がさしました。“保育教諭になりたい！”と。今年も、その子どもたちと遊ぶことができ、私はやはり保育教諭になりたい！と改めて再確認することができました。

2つ日は、昨年お宅にお邪魔させていただいた家族との再会です。とても賑やかで、笑顔の絶えない暖かい家族は、私にとってとても落ち着く空間であり憧れなのです。また、いきなりの訪問にもかかわらず暖かく出迎えてくれる家族が、私にはとても嬉しくて大好きな家族です。今回は、昨年より話す機会も多く早々とお宅に遊びに行く約束ができ嬉しかったです。昨年より関わりが深くなったように感じました。

そんなこんなしていたら楽しかった4泊5日の甑島での「アイランドキャンパス」もあっという間に終わってしまい、やはり甑島を出るときは帰りたくないという気持ちが大きくなり、とても寂しい気持ちになりました。

島の方々がお見送りに来てくれて「またね！」と言う言葉に、より一層のさみしさと、「またね！」と言ってもらえることの嬉しさ、2つの感情を抱えつつ、私は“絶対甑島に戻ってこよう”と思いました。

また今回は卒業生として参加させていただき、先生や後輩たちと過ごす時間は懐かしくもあり、どこか新鮮で頼りになる後輩との交流は“私も頑張らなくちゃ”と言う気持ちになりました。

後輩たちと仲良くなるきっかけをくれ、私の夢をはっきりさせてくれた甑島にまた戻って来られるよう、また明日から頑張ります。

私はやっぱり甑島が大好きです！

7. おわりに

鹿児島県薩摩川内市・甕島での「アイランドキャンパス」事業への参加は今回で3年目となる。昨年度までの2年間は薩摩川内市の「こしきアイランドキャンパス」事業への参加という形で実施してきた。しかし、薩摩川内市がその事業を今年度から休止したことを受けて、当初学内予算のみでの実施で計画立案を進めていた。そうした折、鹿児島県でも「アイランドキャンパス」事業を実施していることが判明し、急遽その助成に申し込むこととなった。その選定結果が本学に届いたのが8月18日、私たちは晴れて鹿児島県離島振興協議会のアイランドキャンパス事業に参加する形で今年度の「アイランドキャンパス」を実施できることになった。

そうした経緯もあり、今年度の甕島での私たちの取り組みは、当初縮小モードでの計画策定を余儀なくされていた。つまり、瀬々野浦地区での運動会への継続参加のみに重点を置き、それ以外の交流実践を保留した形で立案したため、計画内容そのものが不安定なものとなっていったといえる。また、鹿児島県離島振興協議会「アイランドキャンパス」事業に選定されるべく、これまでの交流実践的な取り組みにだけでなく学術的な要素を加味しようとするあまり、取り組みの軸が曖昧になってしまったことは否めない。本来、「アイランドキャンパス」事業の趣旨は大学という高等教育機関ならではの学生たちによる学術的調査研究を通して、現地の人々と交流し、島の定在に新たな価値づけを行い、その価値（魅力）を発信していくことに主眼がおかれていると理解している。この学術的な調査研究的な要素は、今回学生たちの卒業研究に結びつけるという試みで多少なりとも達成しようと試みたが、まだまだ客観的に評価されるような水準に至っていないのが現実である。このことは、次年度以降積年の課題となっていくことは免れないと自覚している。

よって、今年度の取り組みも、昨年度までの取り組みを継承し、学術的なものというよりも実践的な内容を中心に構成されることとなった。交流を中心とした実践の中核に据える取り組みは、一とすれば「学生を甕島で遊ばせているだけ」という誹りを受けないでもないが、しかしそれは、「甕島」と本学の学生たちとを出会わせたいという、一昨年来の私の願いから出発している。しかも、今回は昨年「アイランドキャンパス」を経験した学生が参加学生の半数の6名（うち1名は卒業生）もいたことは、彼らが、「甕島」と、「瀬々野浦」と、「長浜小」と、どのような再会を果たし、その関係を彼らなりに如何に深化させてくれるのか、ということが今回の最大の課題とであった。しかし、2回日の参加となると、緊張感も薄れ「馴れ（狎れ）」が出てくる。この「馴れ（狎れ）」を「熟れ」にどのように転化していくか、私たちが試される場面でもあった。（このことは、学生のみに限らず、私自身にも当てはまることである）

今回は、初っ端からトラブルがあった。エンジントラブルによるフェリーの欠航である。私は、学生達だけで島に渡らせた。そのことが、結果的には彼らの自主性や団結力、さらには主体性を多少なりとも発揮する結果となったことは、正に怪我の功名であった。確かにそれは、そのために数多くの下甕島の方々に多大なご助力とサポートがあったればこそその成果であり、現地の方々に感謝するばかりである。結局、私たち教員は翌日の午後には下甕真に上陸を果たし、長浜小学校で学生達と合流することができた。しかし、20時間延らずという短い時間であったが、教員に依存できない状況なかで自分たちだけで計画を遂行していった事実は、彼らに自立（自律）的な何物かをもたらしたように思う。もう少し教員

不在が続いたならば、もっと彼らの変容が期待できたのではないかと、今振り返ると考えないでもない。私たちの「アイランドキャンパス」の将来像の一端がここにあると考えている。

昨年度の報告書のなかで、私は次のように書いた。

今回の本学の試みも、学術的なものというよりも実践的な内容で構成されることになった。それは、「甌島」と本学の学生たちとを出会わせたいという、昨年来の私の願いから出発している。昨年までは予定調和的で淡いままだった学生達への期待——それは、「甌島」の自然や町並みやそこに暮らす人々との出会いは、きっと学生達になにものかをもたらすのではないかとという淡い期待——も、昨年の取り組みを経て今年はそれも一つの確信めいたものに変化してきた。学生達は、単に「甌島」という鹿児島県の島を認知したというレベルをはるかに超えて、「甌島」での感動や出会いをその時だけで終わらせず、自らの卒業研究や学園祭の取り組みに繋げようとしている。「甌島」が単に“好き”というに留まらず、特別な場所＝大学生活におけるひとつの原風景として、学生達は、自らの成長の糧に転換させようとしているのだ。

この気持ちや考えは今も基本的には何ら変わっていない。ここにこそ、「こしきアイランドキャンパス」の成否を決める要があるとも考えている。

そして今年、参加学生の半数は二度目の瀬々野浦での「アイランドキャンパス」であった。昨年、4年生ではじめて「アイランドキャンパス」で甌島を体験し、今年もOGとして参加したひとりの卒業生は、昨年の甌島で仄かな光を見出し、今年その光に向かつての道筋を確かなものにしていく。そこには、彼女自身の変化があり、変容があり、進化がある。それをもたらしたものは甌島でのいくつかの〈出会い〉であり、そして今回の〈再会〉である。具体的な“ひと”との繋がりが人間を成長させてくれている。〈再会〉——ここに今回私たちの「アイランドキャンパス」で求めていることの本質的なものがあるのではないかと考えている。

他の学生達もさまざまな場面でそれぞれ取り組んでくれた。それはきっと彼らに達成感や充足感をもたらしてくれた。その多くは、島の人たちとの出会いと再会があつてのことである。そして、仲間と共にプロジェクトを達成するという具体的な行為が、学生達に自らの成長へと導いてくれていると確信している。

私たちの「アイランドキャンパス」も3年目を終えた。前述したように、これまでは交流実践を中心に、「交流」(出会い・再会・体験)に重きを置いた取り組みであった。3年間の取り組みをとりあえず終えたいま、私たちはその取り組みを“「交流」のその先へ”と前進させる時期にきているのではないかと考えている。もまた確かかもしれない。

この島を舞台に今後、私たちに何が出来るのか、何をすべきか、いったい何がしたいのか、それらを模索する日々はこれからも続く。

今年も、そして3年にわたって、私たちの取り組みを支えてくださった甌島のみなさん、本当にありがとうございました。まだまだこれからも、よろしく願いいたします。

平田 毅

8. 参加者

○運動会を終えて 旧西山小学校の体育館で住民（参加者）のみなさんと



●参加者名簿 学生：10名 + OG：1名 教員：2名 (男：11名 / 女：2名) 合計13名

No.	名前	よみ	性別	生年月日	所属(学年)	役割分担
1	平田 毅	ヒラタ タケシ	男 55歳	(S33)1958/12/10	教員	全体統括
2	竹石 洋介	タケイシ ヨウスケ	男 37歳	(S51)1976/12/07	教員	相撲部統括
3	2121021 林 健太郎	ハヤシ ケンタロウ	男 20歳	(H6)1994/02/22	相撲部(3年)	綱引き交流、運動会 料理
4	2141502 大田 咲綾	オオタ サアヤ	女 18歳	(H8)1996/03/21	相撲部(1年)	綱引き交流、運動会 料理
5	2111028 高木 剛	タカキ ゴウ	男 22歳	(H4)1992/05/13	相撲部(4年)	綱引き交流、運動会 料理
6	2111038 東名 聖司	トウミョウ タカシ	男 21歳	(H4)1992/10/26	相撲部(4年)	綱引き交流、運動会 料理
7	2121019 徳元 伸太郎	トクモト シンタロウ	男 21歳	(H5)1993/07/02	平田ゼミ(3年)	【学生統括】 写真記録、
8	2111009 浦川 敦志	ウラカワ アツシ	男 22歳	(H4)1992/09/21	平田ゼミ(4年)	料理統括 BBQ
9	2111017 神田 裕	カンダ ユタカ	男 22歳	(H4)1992/05/01	平田ゼミ(4年)	料理給仕、BBQ 運動会出場
10	2111027 末吉 竜之介	スエヨシ リュウノスケ	男 22歳	(H4)1992/07/01	平田ゼミ(4年)	情報発信、料理給仕 運動会出場
11	2111047 横沼 雅之	ヨコヌマ マサユキ	男 21歳	(H4)1992/12/13	平田ゼミ(4年)	写真記録統括 ブログ
12	2111015 川口 楓	カワグチ カエデ	男 21歳	(H4)1992/11/29	秋吉ゼミ(4年)	情報発信統括、写真 MC、料理給仕
13	OG 原口 美紗樹	ハラグチ ミサキ	女 22歳	(H4)1992/02/25	平田ゼミ卒業生	料理給仕、BBQ 運動会出場